

第4学年1組 道徳学習指導案

日 時 平成28年10月31日(月) 第5校時
場 所 4年1組教室
指導者 ○○ ○○

1. 主 題

わたしたちの生活向上プロジェクト

2 主として他の人とのかかわりに関すること (2) 思いやり, 親切・信頼友情

2. ねらい

「思いやり」について、様々な角度から価値を見だし、福島県が置かれている状況を知り、自分たちの生活を向上させていくためにどんなことを考えて行動していけばよいのかを話し合い、実践しようとする態度を養う。

3. 児童の実態について

男子9名、女子22名 計31名のクラスである。震災当時、4・5歳だった児童は、保育所や幼稚園、自宅などで被災し、3名の児童が避難等の転居を経験している。クラスで実施したアンケートによると、地震の前後で生活が変化したと感じている児童は4名で、「地震に備えて生活している」「曾祖母が亡くなり、(家族の)笑顔があまりなくなった」「父親が家でみんなを気遣っている」「母が以前より忙しくなった」というものである。また、原発事故後、県内で困っている人がいることや、困っている問題があることを知っている児童は、16名とクラスの半数である。しかし、実際に事故の際に困ったり、嫌な気持ちになったりした児童はいない。

このような実態なので、将来的に「福島県民」という立場に立たされたとき、相手の立場に立った考えを経験することは、とても大切であると考えます。

4. 指導について

本実践は、小学校4年生の内容で、「相手の身になって人を思いやり、進んで親切にしようとする態度を育てる」授業である。

2011年の東日本大震災で、本県は、地震と津波による甚大な被害を受けただけでなく、福島第一原子力発電所の事故により多数の避難者を抱えることとなった。また、放射性物質が県内各地にも飛散したことから、児童の安全な生活を守るため、放射線に関わる学習を計画的に行い、理解を深めてきたところである。避難を余儀なくされた児童の中には、住み慣れた土地を離れ、大きな不安を抱えているうえに、放射能事故に関する無理解から、心無い言葉をかけられて傷ついたということもあった。

他県の間人から見れば、福島県は1つだが、会津と中通り・浜通りとでは、被害状況が大きく異なり、特に、原発事故に関しての意識には温度差が大きい。原発事故について改めて学び、同じ福島県民として、自分にできる行動を考えることで、自分たちの日常生活につなげさせていきたい。

本主題では、次のような力をつけさせたい

- ・教材から感じたことや考えたことを出し合い、学びたい価値を考え、学級での共通課題に沿って話し合うことで、ひとりひとりの「思いやりの気持ち」を深めることができるようにする。
- ・学級活動や教科の学習をもとに、道徳での学びを生かす場を設定し、身近な問題につなげていくことで、価値について深めたことを実践しようとする。

5. 資料について

この話は、本校職員の子どもが実際に経験した事をもとに作成した。会津地域は、放射性物質の飛散による被害があまり大きくなかったことから、日常生活の規制もなく、通常的生活を送る児童が多かった。そのため、他地区の児童が、避難生活を余儀なくされたり、屋外での活動を制限されたりしたことは、自分達の生活経験と重ならない。ところが、震災後、スポーツ少年団の練習試合で、隣県に遠征した際、「放射能が移る」「放射能が来た」などと、揶揄され、非常に憤りを感じて試合から戻ったとの話であった。

この資料は、「福島県民」として、自分にできる行動を考え、自分たちの日常生活につなげていくために適した内容であると考えている。

6. 指導計画

活動1：総合的な学習の時間

「福島県環境創造センター」の見学学習で、東日本大震災と福島第1原子力発電所の事故について、ディテールを知る。

活動2：学級活動

除染情報プラザを通して専門家を招き「放射線ってなんだろう」の学習を行う。αちゃん、βちゃんを使い、放射線の特性や遮蔽などについて知る。

活動3：朝のチャレンジタイム・振り返りタイム（15分×5時間，20分×1時間）

原発事故などについて調べ、5年間を振り返る。

活動4：道徳（本時）

思いやりを行動で【2-(2)思いやり、親切】

あのひとことで（自作資料）

活動5：道徳（3学期）

思いやりを行動で【2-(2)思いやり、親切】

ポロといっしょ（東書）

7. 指導過程

学習活動	指導上の留意点 ★…評価の観点
<p>1 これまでの学習から、東日本大震災について分かったことを発表する。</p> <p>① 東日本大震災についてこれまでに調べたことを、振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波で、大きな被害が出た。 ・原発事故が起きた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災関連の資料などを掲示しておくことで、活動を振り返りやすくする。 ○ 経験を思い出すことで、ねらいとする価値への方向づけを図る。
<p>2 「あのひとことで」を読み、役割演技をしながら主人公の気持ちを考える。</p> <p>① 久しぶりにサッカーの練習をしたときの「ぼく」の気持ちはどうだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーができるようになってよかった。 ・みんなと会えて嬉しい。 <p>② 練習試合が決まったことをコーチから聞いた後、「ぼく」は、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみだな。頑張ろう。 ・絶対に勝つぞ。 <p>③「お前たち、福島だろ。放射能がうつるからさわんなよ。」と言われたとき、「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこんなことを言うんだらう。 ・放射能は、人にうつらないのに。 <p>3 思いやりについて話し合う。</p> <p>① 自分がその場にいたら、どのような行動をとりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームの友達なら、慰める。 ・相手チームの子なら、「そんなことを言っではいけない」と注意する。 <p>② 思いやりのある行動とは、どういうことでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 試合までの気持ちをしっかり考えさせることで、「放射能がうつる」と言われた時の、主人公の動揺を想像させられるようにする。 ○ 役割演技をさせ、演じている本人と、見ているまわりへのインタビューを行わせる。演者は「やってみてどんな気持ちになったか」、他の児童は「見ていてどんな気持ちになったか」を発表させる。 ★ 心無い一言を言われた時の、主人公の心情に共感することができたか。 ○ 同じチームと相手チーム、それぞれのチームメートなら、どういう行動をとるかを具体的に考えさせることで、「思いやり」のある言動とはどういうことなのかを考えさせる。 ○ 原発事故や放射能についての知識がないために、悪気なく言った人に対して、自分だったらどのように対処するかを、グループで話し合わせる。
<p>4 友達の発表と、自分の意見から、考えたことをまとめ、主人公に手紙を書く。</p> <p>① 今日話し合った事をもとに、「ぼく」に手紙を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公にあてた手紙を書かせることで、学習したことを自分の日常に生かそうとする気持ちを持たせる。

【資料】(自作資料)

あのひとことで

地震の後、外での運動を禁止されていたぼくたちは、しばらく休みだったサッカーの練習が始まると聞いて、とびあがってよろこんだ。久しぶりに会う友達とのあいさつもそこそこに、ボールをけり始めた。

久しぶりの校庭で、ぼくたちはむ中になってボールをけた。「やっぱり、外で運動できるのは楽しいし、気持ちいい。」そう思いながら練習をしているうちに、コーチから集合の声がかかった。コーチは、3週間後に、となりの県のチームとの練習試合が決まったことをぼくたちに伝え、「はりきりすぎて、けがをしないように」と、話をしめくくった。

練習からの帰り、ぼくたちは練習試合の話でもりあがった。地震いらい、外での運動がせいげんされ、家族もいそがしくて、なかなか遠出することもなかったからだ。その日から、練習試合の日が来るのが、とても楽しみで、これまで以上に練習に力が入った。みんな、久しぶりの試合に勝ちたいという気持ちでいっぱいだった。

3週間後、ぼくたちはバスに乗って試合会場に向かった。グラウンドで、すでに練習を始めているチームもいて、さっそくアップとドリブル練習を始めた時だった。友達のパスが大きくそれ、相手チームの方に転がって行ってしまった。ぼくは「すみません！」と、大きな声を出しながら、ボールの方へ走って行った。転がっていったボールは、相手チームの一人にあたり、もう一度「すみませんでした。」と行ってボールを拾おうとした。その時「お前たち、福島だろ。放射能がうつるからさわんなよ。」とつぶやいたのが聞こえた。

ぼくは、頭の中が真っ白になって、自分たちのベンチにもどった。それまでのうきうきした気持ちは消え、試合に勝っても気持ちは晴れないままだった。